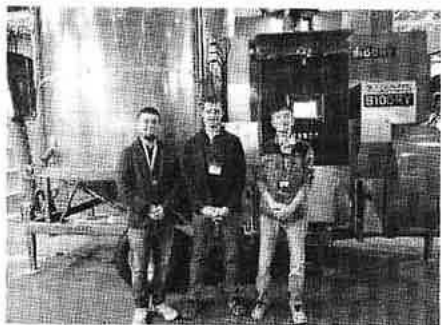




STRAHL社の乾燥機の前で、左から山田社長、スキーパー氏、櫻井部長

イタリア・国際農機展レポート
EIMAが示す農の未来 ⑥

B・I・A開催2日目、国内農家に販売した同見本市へ視察。商談に訪れたのは韓国・アグリフォレストマシアン（北海道空知郡南幌町南15線西22、以下AGFM社）の代表取締役CEO・山田にわたりお届けする。

AGFM社は、1971年創立のナカザワマリンマシン(株)を前身とし、2022年に社名変更。前社名の時代から

30年にわたり、世界で
新品及び中古の農林機
を取り扱ってきた。そ
りとしたアフターサー
ス、メンテナンスなど

の取り入れにも留意し、EIMAにおきてもそうした視点で練るが、中でもR&H機として北海道を中心に、岩手などの大規模製糖業者に販売しているという。「日本の製糖機より」

AGFM
視察同行紀

穀物乾燥機、全自動移植機など

精度、速度を両立

ディーラー注目のリア新技術

小間には、A G F M社がもてるかに短時間で大量に乾燥できるのが大きな特徴。低温度長時間、高温短時間など仕上がり温度調整が、小型の固定式乾燥機、乾燥後の穀物サンプルなどで表示されている。小間ではS T R A Hの「ニロ・スパークボ」と山田社長は胸を張る。

べて自由が高へ、効率
り、小間（は、同社エリ
アマネ、ジャーのアレッ
サンドロ・コルベッタ氏
が代表とされた。

氏によると、家族経営
の同社が現在子代目にあ
たり、創業当時は単純な
農機製造だったものの、
その後半に、空気圧・電
子部品などの最新技術を



Ferrari GROWTECH社の小間にて、コルベッタ氏（左）と山田社長

特に評価が高いのが、業界初の全自動野菜移植機である。同社の全自動移植ロボット「FUTURA 4」及び「FUTURA TWIN」は、1台当たり1レイを供給するオペレーターのみで作業でき、移植は全自動で行う。可動フィンガーと組み合わせた円筒形のフロッシャーに基く技術を使用しているほどと田中社長は語る。山形県では同社の移植機に